

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立鳴子幼稚園長

鈴村 優子

令和3年度 学校評価報告書

学校教育の 努力点(主題)	主体的に遊び込む幼児の育成	Ⅱ
------------------	---------------	---

1 実践のねらい

幼児期には、“面白そう”と心を動かし、思いや考えを表し、遊びを進めてほしい。そのために、幼児の興味、関心、育ちつつある姿を読み取り、夢中になって遊び込める環境の構成や、教師や友達と思いや考えを共有できる状況をつくることが大切である。

そこで、幼児が心を動かし、周りのものや人に関わり、主体的に遊び込む経験を積み重ねられるよう、育てたい姿を明確にもち、環境の構成や教師の援助をしていきたい。

2 実践のねらいに迫るための手だて

- ・ 各学年の終わりまでに育てたい幼児の姿を明確にし、指導計画を基に学期ごとの育てたい姿を見直す。
- ・ 研究保育、事例研究会などを通して、各学年の主体的に遊ぶ姿とは何か読み取り、環境の構成や教師の援助の振り返りを行い、次の保育に生かす。
- ・ 学年だよりやドキュメンテーションなどを通して園の取り組みを発信し、家庭と連携して幼児の育ちを促す。
- ・ 自己評価や保護者・地域・学校関係者の評価から、次年度の取り組みに生かす。

3 実践の内容

- ・ 研究保育では遊びの様子を動画撮影し一つの場面について話し合うことで、いろいろな意見を出し合い、各学年のその時期に大切なことを明らかにした。
- ・ 学年だよりの配付やアプリによるドキュメンテーション配信、ホームページやインスタグラムで幼児の育ちを伝えた。

4 成果と課題

学年の終わりまでに育てたい姿と、学期ごとの育てたい姿と明確にしたことで実践しやすく、幼児の主体的に遊び込む姿につながった。アプリによるドキュメンテーション配信をし、リアルタイムに幼児の姿を伝えることができ、保護者の園の取り組みへの理解が深まった。理解してもらったことを保育に繋げる連携ができるとよかった。

5 来年度に向けて

I C T活用の利点を活かし、小学校や保護者、地域と連携し保育をしていきたい。